

平成30年度第1回北海道子どもの未来づくり審議会
子ども・子育て支援部会 議事概要

日 時 平成30年12月19日(水) 15:30~17:43

場 所 北海道第2水産ビル 4F会議室

出席委員 松本部長 / 品川委員 / 辻委員 / 亀井委員 / 加藤委員 / 前田委員 /
山田委員 / 西村委員 / 高階委員 / 八乙女委員 / 宮澤委員

事務局 鈴木子ども子育て支援課長 ほか12名

議 事

審議事項

(1) 第3期「北の大地☆子ども未来づくり北海道計画」の評価について

○事務局から、資料1-1、資料1-2に基づき説明

○委員の主な発言(要旨)

- ・次期計画の中に結びつけていく課題と、現在早急に対応していかなければならない課題とがある。それらをどのように捉えているか。
- ・喫緊の課題については、道民の方にわかりやすいように、対応時期を明確にする記述があるといい。

(2) 次期「子ども・子育て支援事業支援計画」の検討の進め方について

○事務局から、資料2に基づき説明

○委員の主な発言(要旨)

- ・これから幼児教育・保育の無償化により働く親が増えていくと言われていたり、ひとり親などの家族の多様化がさらに進むことを考えると、地域の子育てを充実していかないと子育ては大変だ。道の役割として市町村への情報提供や指導をして欲しい。
- ・計画に基づきいろいろな課題を解決していくわけだが、保育人材を確保していくことが重要である。また、幼稚園教育と保育の質の問題は、子ども未来推進局と教育委員会で分かれるのではなく、一緒に考えていける体制を作っていくべき。
- ・放課後児童クラブ、放課後子ども教室は、離れた児童館よりも、学校のそばや学校で行われると、利用しやすいと思う。
- ・新放課後子ども総合プランで、学校施設、特に小学校を活用することが書かれている。その場合、学校と児童クラブの間の線引きをしっかりと行って欲しい。

(3) 第4期「北の大地☆子ども未来づくり北海道計画」の策定スケジュールについて

○事務局から、資料3に基づき説明

○委員の主な発言（要旨）

- ・来年度の秋に幼児教育・保育の無償化が始まった場合、保育の「量の見込み」など調査データが変わっていく可能性がある。そのような事情をどのように計画に反映させるか。

(4) 道の子育て支援施策の展開について

○事務局から、資料4に基づき説明

○委員の主な発言（要旨）

- ・幼児教育・保育の無償化は計画づくりと関係するが、多子世帯の保育料軽減支援事業、保育士の配置特例、及び子育て支援員の研修は計画づくりとは趣が異なるということでした。ただし、後者の議論をする中で、計画の内容に跳ね返る場合はありうる。
- ・保育士の配置基準はぜひ緩やかにして欲しい。子ども3人に保育士1人という配置は現場ではまず考えられない。北海道の独自の基準を見直していただきたい。

(5) 放課後児童クラブに係る「従うべき基準」の見直しについて

○事務局から、資料5に基づき説明

○委員の主な発言（要旨）

- ・放課後児童クラブにおける支援員の配置については、北海道は広いので実情はさまざまであるため、最後は市町村が判断するのだと思う。また、小学校と児童クラブの連携も大変で、小学校の側としては、資格を持った方がきちんといるのが有り難い。地域の人材で、仕事をしていない母親（卒業生の母親を含む）など人材はいると思う。最後に、幼稚園教諭や小学校教諭を子育て支援員にという話があるが、教育の現場も欠員が出ており、現実的でない。
- ・支援員の認定資格研修や資質向上研修は、無料で勤務時間内での受講を可能としたほうが受講者が増えるのではないか。

報告事項

(1) 北海道子どもの未来づくり審議会子ども・子育て支援部会の委員改選について

○事務局から、資料6-1、資料6-2に基づき説明